

「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム 成果発表会発表要旨報告書

学校名	青森県立青森南高等学校
-----	-------------

◆発表テーマ

※本テーマは各校の「あおもり創造学」のテーマとし、**発表内容に応じて必ずサブテーマを付けてください。**

南高のバトン ～高齢者の社会参加促進～

◆発表要旨（100～200字程度） ※具体的に文章で発表内容をまとめてください。

私たちのリサーチクエストは「青森市の高齢者の社会参加促進」です。
私たちは、いきいきガーデン勝田さんを訪問し、実際に高齢者の方たちと交流しながら実態調査をしました。その結果、「意欲はあるが体が不自由で参加できない」方が多いということを知りました。高齢社会の課題解決において社会参加促進は重要なポイントになると考え「外出が困難な方には、私たちが訪問し交流する」または「リモートで参加を促す」ことができるのではないかと考えました。

◆発表内容

1 リサーチクエスト設定の根拠

フィールドワーク先で知り合った町内会の方から「高齢者の社会参加を増やして欲しい」という話を聞いた。青森県は特に冬は外出が困難になる、さらに高齢者の単身世帯増加などの地域課題解決のため、高齢者の「社会参加促進」をテーマとした。

2 仮説

社会参加しないのではなくて、できないのではないかな。

3 実践・調査

- 1) 高齢者施設を訪問し、高齢者の方たちと交流を通して実態を調査。
- 2) 社会参加の意義を考え、高齢者に負担のかからない社会参加を考える。

4 調査結果

参加したいという意欲はあるが、社会参加できない人たちに参加する機会を、様々な方法でアプローチしていく。

5 考察

「参加する」意味を転換し、外部からの交流も社会参加の一環ではないか。私たちが高齢者の元へ行って交流すること。または、リモートを介して高齢者の社会参加を促すこともできる。

6 今後の展望

文化祭のステージ発表や文化部の発表会、運動会もリモートで参加してもらうことができる。また、高校生が考えた体操を一緒に行うなど参加方法は様々考えられる。しかし、ネットワークの環境整備など高齢者施設の方に協力頂かないといけない課題もあるが、高齢者の社会参加が促進されることで、住みやすい地域へ近づくとと思う。

「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム 成果発表会発表要旨報告書

学校名	青 森 高等学校
-----	----------

◆発表テーマ

※本テーマは各校の「あおもり創造学」のテーマとし、**発表内容に応じて必ずサブテーマを付けてください。**

Removing Language Barriers at Hospitals ～県内在住の外国人が病院で抱える問題を解決したい～

◆発表要旨（100～200字程度） ※具体的に文章で発表内容をまとめてください。

私たちは言語の壁について学習しています。留学生や関係者の方によると、病院での診察時に外国人の方が言語の壁に直面していることがわかりました。症状を伝える際にオノマトペが使われるため、それに関するオノマトペを一つの冊子にしてその効果を検証し、有効であることが確認できました。今後はこのオノマトペの本を、学習者のレベルに合わせて母国語やさしい日本語で説明する、オノマトペを教える動画を作る、などしていこうと考えています。

◆発表内容



左表に見られるように、県内在住の外国人は年々増加している。時折体調を崩し、病院で診察を受ける必要があるが、その場合、付き添いの通訳の人を通して症状を医師に伝えなければならない。

「どこが」は正確に伝えられるが、「どのように」痛むのかに関してはなかなか伝達が難しいことが、外国人対象の調査によって明らかになった。

病院で症状を伝える際、日本人はオノマトペを多用しているが、これは世界的に見てもかなり稀であり、実際日本語のオノマトペは多言語と比較してもとても多い。このオノマトペが言葉の理解と運用の障害になっていて、ある程度オノマトペを使えるようになれば、外国人が病院で診察を受けるときに有益と考え、研究を行った。

きに有益と考え、研究を行った。

診療現場でよく使われる表現をリストアップしたのち、絵を多用した独自の教材を開発し、N1～N4 の様々な日本語能力を有する青森市内在住の外国人の協力を得て日本語教室を開いた。受講前後で理解度を測る小テストを実施した結果、教材と日本語教室が有用であることが分かった。

様式 2

「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム 成果発表会発表要旨報告書

学校名	青森東	高等学校
-----	-----	------

◆発表テーマ

※本テーマは各校の「あおもり創造学」のテーマとし、**発表内容に応じて必ずサブテーマを付けてください。**

「E-Pro地域探究」～母親へのメンタルサポート大丈夫？～

◆発表要旨（100～200字程度） ※具体的に文章で発表内容をまとめてください。

少子化の進行の一つと考えられる「産後うつ」について掘り下げ、「青森市は母親に寄り添った産後うつ支援をより充実する必要があるのではないか？」という疑問が浮かび、その一つの方策として日記というアイテムを活用することを高校生なりの意見としてまとめました。

◆発表内容

- ・探究背景
- ・産後うつについて
- ・青森市の取り組み
- ・探究の目的・意義
- ・仮説
- ・探究方法
- ・結果考察
- ・結論・今後の展望

「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム 成果発表会発表要旨報告書

学校名	青森県立北斗高等学校
-----	------------

◆発表テーマ

※本テーマは各校の「あおもり創造学」のテーマとし、**発表内容に応じて必ずサブテーマを付けてください。**

「不登校」という社会問題を考える～ありのままの自分を認めて～

◆発表要旨（100～200字程度） ※具体的に文章で発表内容をまとめてください。

中間年次2年目の生徒たちが「不登校」をテーマに一人一課題に取り組んだ。生徒たちは、SSWの金澤さんから「教育機会確保法」の内容を聞き、不登校の生徒が目指す先は、「学校復帰」ではなく、「社会的自立」が大切なことを学んだ。また、ワークショップとして、市内の不登校傾向の中学生と保護者と交流した。この半年間で学んだこと、調べたこと、感じたことを「壁新聞」にまとめた。最後に、「居場所作り」からの視点と「親子の本音」に力点を置いた「壁新聞」を紹介する。

◆発表内容

- 1 テーマ「不登校」という社会問題を考える
サブテーマ：ありのままの自分を認めて
- 2 課題設定
不登校のタイプの種類と原因、不登校生徒の居場所作り、親子の本音 etc.
- 3 情報収集
 - ① スクールソーシャルワーカーの金澤さんの講話
「教育機会確保法」について
 - ・ いじめ、仲間はずれの環境づくり
 - ・ フリースクールなどの民間団体との連携
 - ・ 学びの多様化学校、教育支援センター、ホームスクールなどの居場所
 - ② 保護者（不登校経験者の親）による講話
 - ・ 不登校を通して確認した親の思い
 - ・ 学校も変わってほしい…
- 4 ワークショップ①
北斗サタデースクール（不登校傾向のある中学生との交流会）
 - ・ 「スポーツ」「ゲーム」「ものづくり」
 - ・ 保護者向け懇談会
- 5 整理分析
 - ・ 不登校の全体像を把握する
 - ・ 不登校対策の「どの部分」に焦点をあてるのか
 - ・ ホームページを精読する
 - ・ データ、図、グラフ等を取り入れる
 - ・ 見出しを工夫する

6 まとめ・表現

- ・壁新聞の展示
- ・グループセッション
- ・ワークショップに参加した保護者の感想

7 ワークショップ②

北斗サタデーフォーラム

- ・「壁新聞」の成果発表会
 - ・「今を変えるために出来ること」
 - ・「キミはわるくないよ」
- ・不登校経験者による生活体験発表会

「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム 成果発表会発表要旨報告書

学校名	青森県立柏木農業 高等学校
-----	---------------

◆発表テーマ

※本テーマは各校の「あおもり創造学」のテーマとし、**発表内容に応じて必ずサブテーマを付けてください。**

柏農あおもり創造学 ～持続可能な地域づくりと郷土愛の醸成をめざして～
【BLOF理論を取り入れた野菜類の栽培】

◆発表要旨（100～200字程度） ※具体的に文章で発表内容をまとめてください。

授業で農林水産省が策定した「みどりの食料システム戦略」について学習し、注目したのが「BLOF理論」である。持続可能で安心・安全な農産物の生産が可能になると感じ、研究に取り組んだ。外部人財を活用した学習会を行って、基礎知識・技術を習得し、栽培試験を行った。目論見通りの結果を得ることができ、今後も地域と連携しながら研究を深めていきたいと考えている。

◆発表内容

本動画の発表内容

BLOF理論を取り入れた野菜類の栽培

☆取組学科・専攻班☆

- ・生物生産科野菜班
- ・食品科学科加工品開発班

「課題研究」での研究活動

学科横断的な研究活動

化学農業 50%低減

化学肥料 30%低減

有機農業 25%拡大

2021年に農林水産省が策定

「BLOF理論」とは？

BLOF理論

BioLOGical Farmingの略

「生態調和型農業理論」とも呼ばれる

今、話題の農業の新理論!?

「BLOF理論」とは？

簡単に言うと、、、

面積を増やさなくても

多収量と高品質

化学肥料・農薬の低減

が実現できる!?

今、話題の農業の新理論!?

外部講師を招いて学習会を開催

くらいし有機農業推進協議会 会長 佐藤 拓郎 様

株式会社アグリートンハート 社長

知識の習得、培養液作成の実践

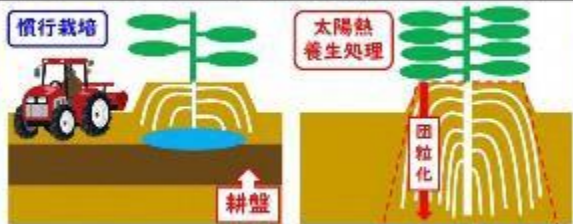
外部講師を招いて学習会を開催

堆肥・有機質肥料の施肥

透明マルチで養生

真骨頂「太陽熱養生処理」実習

菌の力で「太陽熱養生処理」



“菌耕”で“耕盤”を破壊する

HAKUNOJI NEWS/

納豆菌・酵母菌の働き



微生物が多方面で大活躍!!

HAKUNOJI NEWS/

太陽熱養生処理：結果



ハウスよりも露地の方が高い

HAKUNOJI NEWS/

清水森ナンバの栽培試験結果



雑草が少なく、収穫量が多い

HAKUNOJI NEWS/

研究の結果とまとめ

- ①BLOF理論を学習し、栽培実践
- ②雑草抑制、収穫量増加、病害対策○
- ③地域と連携した研究活動



1年間でも大きな成果!!

HAKUNOJI NEWS/

「太陽熱養生処理」のねらい

土壌の団粒化を促進
根量が増える
肥料分の吸収が促進
高品質・多収量の実現



簡単に効果を実感できる技術

HAKUNOJI NEWS/

更なる学習会で理解を深める



数値・科学的に説明できる農業

HAKUNOJI NEWS/

太陽熱養生処理の効果を分析

最高地温	効果(目安)	最高地温	最高地温	積算温度	積算温度	効果(目安)
60℃	雑草種子死滅	51.0℃	露地①	543℃	900℃	雑草抑制
45℃	糸状菌と放線菌が置き換わる	47.0℃	露地②	537℃	600℃	病害虫の活動低下
30℃	土壌団粒化	41.9℃	ハウス	483℃	300℃	土壌団粒化とネラル根の発達

約2週間→積算900℃未達成

HAKUNOJI NEWS/

ミニトマト（ハウス）栽培結果



病気に強く、根量が多い

HAKUNOJI NEWS/

今後の課題と展望

- ☆有機栽培は理論を知ると簡単!?
- ①学習を深め、知識・技術の習得
 - ②学校給食の有機化へ挑戦



柏農として地域と連携して継続

HAKUNOJI NEWS/

「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム 成果発表会発表要旨報告書

学校名	弘前中央 高等学校
-----	-----------

◆発表テーマ

※本テーマは各校の「あおもり創造学」のテーマとし、**発表内容に応じて必ずサブテーマを付けてください。**

S a k u r a T i m e 【 自己探究 】
～地元を元気にするには～

◆発表要旨（100～200字程度） ※具体的に文章で発表内容をまとめてください。

一人目の発表は地方経済の活性化に焦点を当て、老舗と呼ばれる和菓子店にはオリジナル商品の工夫があるのではないかという仮説を検証したものです。

二人目の発表は農業に焦点を当て、青森県の気候で栽培に適した、小麦の「育種（品種改良）」について仮説を立て、検証したものです。

◆発表内容

町おこしやインバウンド消費に着目し、地方経済の活性化のために良質な需要を生み出すために必要なモノは何なのか探っていった。老舗の定義を50年以上続いているお店、という定義づけをし、ジャンルを和菓子店に絞り、フィールドワークに出て検証した。高校生目線ながらも、私の提案はオリジナル商品の開発で需要を生み出せないか、というものであった。検証の結果分かったことは、オリジナル商品のある無しだけでは、老舗の存続とは直接結びつかない、という新たな視点であった。

青森県産の新たな需要を生み出す、という点に着目し、一次産品の小麦の栽培に可能性はないか探ってみた。その結果小麦は品種によって様々な特徴を持つことが分かったため、交雑育種によって青森県の気候での栽培に適した品種を改良できないか、新たな問いが生まれた。帯広畜産大学の教授から送ってもらった小麦を実際に栽培してみることで、今後の課題と新たな問いを見出していきたい。

「あおり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム 成果発表会発表要旨報告書

学校名	弘前	高等学校
-----	----	------

◆発表テーマ

※本テーマは各校の「あおり創造学」のテーマとし、**発表内容に応じて必ずサブテーマを付けてください。**

私たちの効果的な地域移行 ―先生の負担軽減と楽しむスポーツを広めたい―

◆発表要旨（100～200字程度） ※具体的に文章で発表内容をまとめてください。

多忙な先生方の負担を減らすために、弘前高校の先生、地元の中学校の先生に部活動の負担、地域移行についての意見をアンケート方式で調査し、それらを基に、負担の原因を知り、全国で進められている地域移行例や、スポネット弘前の代表者への取材から、私たちなりの地域移行のシステムを考案した。

◆発表内容

1. 研究目的（1）先生の仕事の負担軽減のため。
（2）部活動の地域移行によって、楽しむスポーツを広めるため。
2. 研究内容（1）弘前高校の先生方に、部活動の負担や、地域移行についての意見を求めるアンケートを実施。
（2）班員の地元の中学校の先生方にもアンケートを実施。
（※中学校では地域移行がより進んでいると聞いたため。）
（3）スポネット弘前の代表者へのインタビューをし、より専門的な情報を得る。
（4）県外の地域移行を参考に、自分たちなりの考える地域移行システムを考察する。
3. 研究結果（1）（2）について
プライベートと仕事の両立が難しい。地域移行は賛成だが、不安はある。など。
（3）について
少子化によって、学校で好きなスポーツをすることが減るため、スポーツイベントを開きたいが、輸送機関の充実が重要である。
（4）について
静岡県掛川市、東京都日野市の例を参考に考察した。
4. まとめ（1）自分たちで地域移行の理想形を作成したが、問題点が残っている。
（2）弘前高校では、生徒と教員で構成されている部活動改革プロジェクトチームが動き始めていることを紹介。

「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム 成果発表会発表要旨報告書

学校名	青森県立六ヶ所高等学校
-----	-------------

◆発表テーマ

※本テーマは各校の「あおもり創造学」のテーマとし、**発表内容に応じて必ずサブテーマを付けてください。**

「あおもり創造学」～ROHS(ロハス) [Rokkasho High School & Rokkasho Our Heritage Studies] 私たちの六ヶ所を受け継ごうプロジェクト2024～
「六ヶ所村特産品を使ったご当地ラーメン作りによる地域活性化」

◆発表要旨（100～200字程度） ※具体的に文章で発表内容をまとめてください。

ラーメンは、日本人はもちろん外国人にも人気の食べ物である。国民食とも言えるラーメンと六ヶ所村特産品を掛け合わせたご当地ラーメンを開発することで、村を盛り上げる起爆剤になるのではないかと考えた。3つの特産物を使った麺の試作や、短命県返上につながる健康面に配慮したラーメンの提案を行い、今後の展望について発表する。

◆発表内容

「ラーメン山内家」

- ①ラーメンにした理由…国民食で、外国人にも人気 No.1 の食べ物
- ②商品案…特産品を使った麺、健康、味とインパクト
- ③六ヶ所村の特産品…ウニ、いくら、ひらめなど
- ③中華麺の試作と感想…ごぼう麺、ブルーベリー麺、ながいも麺



- ④ながいも麺に決定…健康に貢献できるラーメン、短命県返上！
- ⑤今後の展望…村内ラーメン店を見学、麺に合う具材の検討・調理、観光物産館で試食会

「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム 成果発表会発表要旨報告書

学校名	三沢商業高等学校
-----	----------

◆発表テーマ

※本テーマは各校の「あおもり創造学」のテーマとし、**発表内容に応じて必ずサブテーマを付けてください。**

三沢市周辺地区の魅力大発信！

～クラフトイベントの力で三沢市を盛り上げよう！～

◆発表要旨（100～200字程度） ※具体的に文章で発表内容をまとめてください。

三沢市の人口増加を目指し、観光資源のクラフトイベントに着目し、研究しました。
このテーマを設定した理由は、クラフトイベントの集客力を使うことで、県内外の方に三沢市に興味を持ってもらえると考えたからです。そして三沢市の魅力に気づいてもらうことで人口増加につながると考えました。

◆発表内容

1. クラフトとは？
2. テーマ設定理由
3. 実践計画
 - ①三沢市の現状
 - ・少子高齢化が進み、転出数が転入数を上回った状態が続いている
 - ②クラフトイベントについて
 - ・イベントの開催時期 ・考えられる影響 ・高校生とのコラボ
 - ③イベント案を考える
 - ・顧客目線、作家目線で最適な条件を考える
4. 提案
 - ・スカイプラザ周辺で、9月頃にイベントを実施してみてもどうか
5. 問題点
 - ・イベントを開催するための費用とその工面について
 - ・場所の確保 ・運営のサポート
6. まとめ・感想
 - ・クラフトイベントで三沢市の人口減少対策ができるのではないかと
 - ・伝統的な文化や工芸を大切にしたい
 - ・研究活動を通して、さまざまな資金をやりくりする仕事に興味を沸かした
 - ・経営の重要さにも気づくことができた

「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム 成果発表会発表要旨報告書

学校名	青森県立鯉ヶ沢高等学校
-----	-------------

◆発表テーマ

※本テーマは各校の「あおもり創造学」のテーマとし、**発表内容に応じて必ずサブテーマを付けてください。**

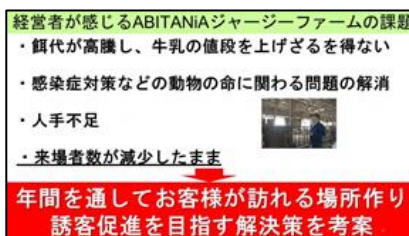
「鯉ヶ沢みらい探究」～鯉高生プロデュース 鯉ヶ沢町の課題解決への挑戦～
ABITANIA ジャージーファームの誘客促進を目指して

◆発表要旨（100～200字程度） ※具体的に文章で発表内容をまとめてください。

鯉ヶ沢町の地域資源の魅力や課題について体験活動を通じて発見し、魅力的な地域資源を継承するための課題を解決しようとする取り組みを行ってきた。その中でABITANIA ジャージーファームという酪農業に着目し、年間を通して誘客を推進するために考案した解決策を関係機関に提案した内容を発表する。

◆発表内容

- ABITANIA ジャージーファームの紹介
- 全国の酪農家が15年で半減 1万戸を割る（ニュース）
- 経営者が感じるABITANIA ジャージーファームの課題
- 訪問してみてわかったこと・自分が感じた課題
 - 移動手段がわかりにくい。
 - 牧場内にあるCafeのメニューが定番だけ。
 - 大容量商品が多く、パッケージが大人向け。
 - 牛とのふれあい体験のPR不足。
 - 情報発信が弱い。



- 上記課題の解決策
 - コミュニティバスでも移動可能であることをポスター掲示すると共に、冬以外の休日に帰りのバスの増便を提案。
 - 鯉ヶ沢町の特産品とコラボした商品開発をし、リピーターを増やす。
 - 少量の加工品と可愛いパッケージ。
 - 近隣のキャンプ場と連携した牛とのふれあい体験をPR。
 - 動画で情報発信。

誘客促進を目指す解決策	
課 題	解 決 策
①移動手段がわかりにくい	①ポスター掲示やあじバスの増便
②牧場内にあるCafeのメニューが定番だけ	②鯉ヶ沢町特産品とコラボした商品開発
③大容量の商品が多い	③少量加工品と可愛いパッケージ開発
④牛とのふれあい体験PR不足	④キャンプ場と連携PR
⑤情報発信が弱い	⑤牛や商品のPR動画

- 鯉ヶ沢町の関係機関へ提案と次年度のインターンシップ

「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム 成果発表会発表要旨報告書

学校名	青森県立八戸水産高等学校
-----	--------------

◆発表テーマ

～「海を知る 地域を知る 創造する」～

1. 海洋ゴミ問題についてその原因とこれからの対策
2. 「なかよし」には、なぜアカイカが使用されているのか

◆発表要旨（100～200字程度）

1. 地球表面の約70%を占める海、その海には多くのごみが放置されています。
ごみが増え続けることで地球全体に及ぼす影響、海洋ゴミ問題の現状を知り、その原因と対策、私たちが取り組むべき課題を考えます。
また、八戸館鼻漁港で実際に釣れた魚を解剖して、その内容物の調査から、地元八戸の魚が安心して食べられるか調査します。
2. 八戸のお土産として有名な「なかよし」には、なぜアカイカが使用されているのか？そのこだわりを調査します。

◆発表内容

1. 海洋ゴミとは…？発生する原因は…？

- ①人体への影響
- ②産業への影響
- ③海の生き物へあたえる影響



実際に八戸館鼻漁港で実際に魚（マハゼ）を釣り、その魚を解剖して内容物を調査しました。



解剖結果は…？



☆これを踏まえて私たちにできることを考えます。

2. 「なかよし（花万食品）」には、なぜアカイカが使用されているのか？

使用されるイカのこだわりを知る。

～八戸沖でなぜイカが豊富なのか～

～なぜイカの漁獲量が減ってきているのか～

～漁獲量回復に向けての取り組みとは～

～アカイカへのこだわり～

☆イカへの思い

「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム 成果発表会発表要旨報告書

学校名	大間	高等学校
-----	----	------

◆発表テーマ

※本テーマは各校の「あおもり創造学」のテーマとし、**発表内容に応じて必ずサブテーマを付けてください。**

青森県立大間高等学校 あおもり創造学 下北の底デカラ発見隊 ～北通り 3 町村編～
グラウンドゴルフで大間町を救う

◆発表要旨（100～200字程度） ※具体的に文章で発表内容をまとめてください。

人口減少が進む大間町で、高齢者の健康維持を目指し、運動不足解消に貢献することはできないか、と考えた。大間町内でゲートボール（グラウンドゴルフ）をやっている人がいる、という情報があり、実際に体験させてもらった。その体験から、高齢者の健康への影響について考察した。また、考察を進める中で老若男女問わず楽しむことができるスポーツだということに気付き、地域の活性化にも貢献できるのではないかと考えた。

◆発表内容

○本校の創造学についての説明

- ・北通り 3 町村の生徒が多く在籍し、地域校としての役割を果たす大間高校の特色と、今年度の「あおもり創造学」のテーマの意義について説明。

○事例紹介「グラウンドゴルフで大間町を救う」

- ・地域の大きな課題である人口減少対策として、健康維持のために何ができるか。
- ・高齢化が進む大間町で、グラウンドゴルフを広く知ってもらうことで運動不足解消に貢献できるのではないか。
- ・老若男女問わず楽しむことができるグラウンドゴルフで、イベント等を催すことができれば、地域の活性化に貢献することもできるのではないか。